

県北の家庭教育応援企業通信

発行所

福島県教育庁県北教育事務所
福島市杉妻町 2 番 16 号
電話 024-521-2814

親子の学び応援講座 開催

【川俣町 PTA 連絡協議会】

地域でつながる家庭教育応援事業「親子の学び応援講座」(川俣町 PTA 連絡協議会)

令和元年 8 月 1 日 (木) / 川俣町中央公民館

【講演】「聞いていますか、子どもの気持ち。語っていますか、親の思い。」

～『自己肯定感』と『生きる力』を育む～こどもの自己肯定感を高める親・教師の接し方

【講師】親業訓練インストラクター 大屋弘子氏

幼稚園・小学校・中学校における家庭教育の推進に向けて、親の学び・家庭での実践活動を支援する目的で域内 2 連合 PTA を対象に「自己肯定感の形成」をテーマにした講座を実施しています。

第 1 回目の講座を、8 月 1 日 (木) 川俣町 PTA 連絡協議会で開催しました。研修者は親業訓練の理論を寸劇やロールプレイを通して実感しながら学びました。大屋氏の優しく穏やかな語り口で、ゆったりとした気持ちで心が通い合い、自己肯定感を育む親子コミュニケーションの方法を演習することができました。



① 家庭教育とは

ア 親や保護者が日常より、子どもに自立を促すよう意志を持って関わること。心の通い合うコミュニケーションにより、「自己肯定感」「自己決定能力」「共感能力」といった「生きる力」が育まれる。

イ 非行に走る青少年にありがちな四つの共通点として、「心の居場所がない」「自尊感情がない」「人生の目標がない」「他者から必要とされていない」があげられる。この「ない」を全部「ある」に変えることが心豊かに生きる四つの条件である。

ウ 自己肯定感とは、自分がかげがえのない大切な存在なのだという感覚のことである。

エ 人は違いを持ちながらも一人では生きていない。人間関係の中で生きていくのでコミュニケーションが不可欠である。

オ 「親子」といっても、子どもは親の自分とは違う人格である。「離別感」を持ち、「大切な他者としての我が子」との感覚を持って関わる。

② 自己肯定感の形成について

ア 子どもの自己肯定感が育まれるための基本は存在そのものの安心感、その上に、能力に対する自信を持つことである。能力とは、持ち味、個性のことである。その持ち味を大事にし、数値化できない能力、つまり非認知能力をアップさせていく環境が大切である。

イ 自己肯定感を親が育むためには、次の 4 点が大切である。

(ア) 子どもの話を聞く

(イ) 頑張りを認める

(ウ) 「ありがとう」の言葉を惜しまない

プラス

(エ) 親の要望も伝えていく

子どもの言動で親が困ったり迷惑が及ぶときは親がしっかりと伝え、後ろ姿を見せていくことで、子どもの社会性が育ち、子ども自ら自分の行動を考えていく知的能力を高めていくことができる。

③ 「子ども」も「親自身」も大切にすること関係づくりに必要な三本の柱とタイミング

ア 「聞く」…子ども自身に困ったことが起きている場合は聞く。受け止めて聞くことで支援し、子どもの悩みに解答を出さない。子どもは解決する能力を持っているのでそれを奪い取ってはいけな

イ 「語る」…子どもが言ったり、やったりすることで親自身が困ったり、受け入れられないときはしっかり語る。親の思いを正直に語ることで子どもに理解と協力を求める。

ウ 「話し合う」…双方が困っているときは「聞く」、「語る」を駆使して話し合う。

④ 「あなたメッセージ」と「わたしメッセージ」～夕食を作っているとき～

ア あなたメッセージ（「あなた」を主語に語る。）

子：「ねえねえ、抱っこして。」

親：「うるさいな、あっち行ってよ。」

子：（拒否された、嫌われた、と感じる）

→家が居心地悪くなる。

イ わたしメッセージ（「わたし」を主語に語る）

子：「ねえねえ、お話聞いてよ。」

親：「今、お母さんはご飯作っているの。」

子：（ああ、お母さんは今ご飯を作っているんだ）

→そのまま理解する



以上、講座の一部をご紹介しました。詳しくは県北教育事務所のホームページをご覧ください。
→<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/345882.pdf>

家庭教育応援企業研修会

今年度、以下の企業より家庭教育応援企業研修のお申込をいただきました。ありがとうございます。

○ 税理士法人 ケーエフエス

○ 東芝フレッシュン株式会社

研修会の様子については次号以降紹介していきます。お楽しみに。



家庭教育応援企業「取組事例紹介」

企業の皆様には、「職場の家庭教育推進」「生活習慣向上の取組」「学校行事への参加促進」「職場見学・体験の実施」「地域行事への協力・支援」など家庭教育を応援いただいております。今回は、寿建設株式会社（福島市）、東芝プレジジョン株式会社（福島市）の取組を紹介します。

東芝プレジジョン株式会社

【親子イベントの開催】

1. イベント名：森の科学探検隊
2. 日時：2019年9月7日（土）10:00～15:00
3. 場所：福島市水林公園
4. 実施内容：水林公園内の自然観察、レクリエーション

2019年9月7日（土）、福島市水林自然林を会場として、プロ・ナチュラリスト佐々木洋氏を招聘した福島市5年目となる森の科学探検隊を開催しました。この活動は、弊社CSR活動の一環(地域社会とのかかわり・共生、自然教育、他)として2015年より開催しているものであり、今年も近隣小学生親子、スタッフを含め総勢40名でのイベント開催となりました。

当日は天候にも恵まれ、佐々木さんの愉快的ガイドの下、午前中は自然観察を中心に、昼食を挟んだ午後は原っぱでのバッタ取り、森の中でのレクリエーションを行うなど、約5時間に亘るイベントでありましたが、大きな怪我もなく終了することができました。

開催後のアンケート結果もとても良好で、親・子双方より「楽しかった」「また参加したい」「来年も企画をお願いします」などのコメントを寄せていただいたことから、次年度以降も継続し開催を企画していく予定です。



TOSHIBA

森の科学探検隊

「隊員募集中!!」

森のことをもっと知り、もっと好きになるために、隊長たちといっしょに森の探検にでかけませんか？

と き：2019年9月7日（土）
場 所：福島市水林自然林
募集対象：森や生き物が好きで、森の科学探検隊の隊員になりたい小学生（1～6年生の児童）
主 催：東芝プレジジョン株式会社
企画運営：株式会社 佐々木洋事務所





隊長：佐々木 洋（ささき ひろし）さん
日本では数少ないプロ・ナチュラリスト（プロの自然案内人）として、国内外の各地をフィールドに、講師、講演、執筆、写真撮影などを行っています。NHK Eテレ「モリゾー・キッコロ 森へいこうよ!」やテレビ東京系列「ヒラメキーン、ミステリー生物調査隊コーナー」などでも活躍中です。






寿建設株式会社

【従業員の子供の職場見学会】

従業員の子供達が親の働く職場を見学し
写真撮影してもらおう取り組み。朝のラジオ
体操から参加してもらい説明を交え建設業
の仕事の重要性を体感してもらいました。



ラジオ体操に参加している様子



興味津々に親が働いているところ
を撮影している様子



家庭教育応援企業の取組をお知らせください

家庭教育を充実させていくためには、家庭や地域だけでなく、企業の取組の推進が益々求められています。各社の素晴らしい取組を発信し、広く紹介して参ります。随時受け付けておりますので、家庭教育のより一層の充実のため、ぜひ、取組の様子を御報告ください。

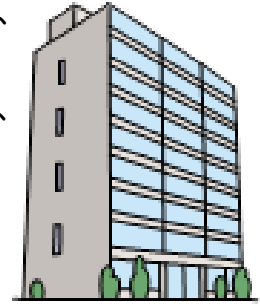
家庭教育応援企業としての御支援と御協力ありがとうございます

【新規申込企業の紹介】 ○福島市 **東芝フレッシュジョン株式会社**

今後とも、家庭教育の推進と子どもたちの健全育成の為に力添えをいただきますよう、お願いいたします。

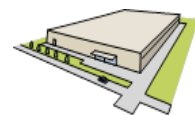
＜福島市＞ 福島ヤクルト販売株式会社、大槻電設工業株式会社、福島信用金庫、佐藤工業株式会社、朝日システム株式会社、東開工業株式会社、社会医療法人秀公会、株式会社福島銀行、株式会社ダイコーエイト、株式会社大丸工務店、株式会社東邦銀行、株式会社山川印刷所、株式会社日進堂印刷所、公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会、第一温調工業株式会社、協和ポーリング株式会社、株式会社トーネット、株式会社トーネットコーポレーション、株式会社三本杉ジオテック、株式会社オノヤスポーツ、株式会社日新土建、株式会社クリーンテック、株式会社環境分析研究所、株式会社こんの、一般財団法人大原記念財団大原総合病院、株式会社阿部紙工、株式会社光和設備工業所、シオヤユニテック株式会社、福島酸素株式会社、株式会社クリフ、内池醸造株式会社、株式会社アポロガス、社会福祉法人けやきの村、福島民友新聞株式会社、株式会社ジェンツ、生活協同組合コープふくしま、渡辺エンジニアリング株式会社、株式会社福島民報社、福島ガス株式会社、社会福祉法人陽光会、きらり健康生活協同組合、北芝電機株式会社、アース株式会社、株式会社エイティック、有限会社西坂製作所、福島カラー印刷株式会社、福島鋳金工業株式会社、有限会社佐戸川ダクト鋳金工業所、株式会社サン・ベンディング福島、株式会社倉島商店、東北電力株式会社福島支店、イーコンセプト株式会社福島支店、株式会社モリヨシ技研、社会福祉法人ライフ・タイム・福島、コボックス株式会社、有限会社テレサ、株式会社ライフロール、渋谷レックス株式会社、中央設備株式会社、協三工業株式会社、株式会社古俣工務店、株式会社福島製作所、ミライズ株式会社、株式会社キスキ、株式会社沖データ福島事業所、株式会社高槻、株式会社エー水技研、新広建設株式会社、株式会社ももがある、有限会社やない製麺、福島エナメル工業株式会社、有限会社櫻井運送、株式会社丸福織物、社会福祉法人北信福祉会、株式会社シンワ、株式会社銀嶺食品、株式会社ユアテック福島支社、株式会社旭電化、有限会社アネスティ、ふくしま未来農業協同組合、株式会社フクセツ、株式会社信濃屋、有限会社 幸、文化設備工業株式会社、富久泉工業株式会社、株式会社ユミヤマ、サンヨー缶詰株式会社、採用と教育研究所、特別非営利活動法人チームふくしま、高野精器有限会社、福島ネオ工業株式会社、宮本技研工業株式会社、寿建設株式会社、株式会社小島建築設計事務所、ダイハツまつかわ、大久自動車販売株式会社、株式会社デリーサービス、税理士法人ケーエフエス、株式会社ケーエフエス、

(次ページへ続く)



New!

- 株式会社KFSライフ設計、株式会社つながるファーム、東芝プレシジョン株式会社
- <川俣町> 株式会社川俣町農業振興公社、株式会社小林、株式会社誉田、
有限会社大善自動車整備工場、株式会社渡辺機械、有限会社藤野機工、
有限会社丸信モーター、有限会社川俣クリーンホープ、有限会社カミノ製作所
- <伊達市> 富士通アイソテック株式会社、公益財団法人仁泉会、株式会社ナプロアース、
社会福祉法人慈仁会、社会福祉法人信達福祉会、三和石油ガス株式会社、
株式会社新栄製作所、常興工業株式会社、大沼林産工業株式会社、有限会社光陽スタジオ、
伊達物産株式会社
- <桑折町> 福興産業株式会社、曙ブレーキ福島製造株式会社、株式会社三栄精機製作所、
渋谷建設株式会社、根本建設株式会社、社会福祉法人緑風福祉会、
一般財団法人桑折町振興公社
- <国見町> 公立藤田総合病院、株式会社国見メディアデバイス、株式会社荏原風力機械国見工場、
有限会社斎藤建設、株式会社福梁製作所、株式会社樋口屋商店
- <二本松市> 株式会社丸や運送、二本松信用金庫、医療法人辰星会、株式会社オウジ、株式会社野地組、
人気酒造株式会社、福島ルビコン株式会社、株式会社協栄製作所、
福島タカラ電気工業株式会社、高橋電機株式会社、株式会社東北東海、南電設株式会社、
株式会社東昇コンサルタント、株式会社菅澤建設、株式会社富樫縫製、
カルソニックカンセイ福島株式会社、有限会社未来テレトピア
- <大玉村> 株式会社三和製作所、株式会社富士ピー・エス東北工場、パーフェクトン株式会社、
おおたま村づくり株式会社、公益財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団
- <本宮市> アルス株式会社、株式会社光大産業、東北協同乳業株式会社、株式会社イワキ、
株式会社マインド、川名建設工業株式会社、株式会社東北電設、コバテック株式会社、
有限会社菅野自動車整備工場、有限会社武田産業、有限会社飯田製作所、
株式会社ヨシハラ、有限会社佐藤工業、株式会社相原製作所、
福島エーアンドエープロイラー株式会社、
株式会社アサヒビールコミュニケーションズ福島支店



【東北の家庭教育応援企業／172社（R元.10現在）】

令和元年度福島県地域学校協働本部に係るニーズ調査について

標記の件につきまして、令和元年10月1日付け元教北第551号文書にて、家庭教育応援企業の皆様に依頼をさせていただきました。

つきましては、各企業で「地元の高校生と共にこのような取組をしてみたい」という希望や「現在高校生と連携・協働してこのような取組をしている」という事例を収集し、企業の皆様と高校生が連携して地域課題を解決する創造的復興教育を推進して参りたいと考えております。ご多用中とは存じますが、標記のニーズ調査にご協力をいただきますようお願いいたします。